

カドコブホソヒラタムシ

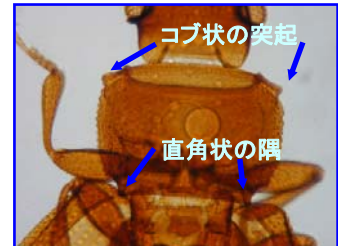
市民から「新しく買った机の引き出しの中から小さな虫が出てきました。木を食べる虫ではないかと心配です」との相談がありました。持ち込まれた虫は、体長が2ミリメートルほどの小さな甲虫類でした。特徴のある前胸部の形でカドコブヒラタムシと鑑別しました。市民には「カドコブホソヒラタムシが木を食べるという報告はありません。穀物の粉やその粉に生えたカビを食べることで知られています。なぜ机の中にいたのかは、分かりませんが、念のため、食品の管理や台所などの清掃を心がけてください」と説明しました。



カドコブホソヒラタムシ

前胸の前方の隅にコブ状の突起があること、前胸の後方の隅は直角状になっていること、光沢のある前翅には彫られたようなくぼみと黄色の毛が生えていること、前胸は、縦の長さより横幅の方が長いことなどがカドコブヒラタムシの特徴です。

また、触角は、先端の3節が大きく膨らみます。特に先端節は、タマネギのような特徴的な形をしています。



ホソヒラタムシ科

カドコブホソヒラタムシは、ホソヒラタムシ科の種類です。カドコブホソヒラタムシの各部の形状を観察することで、ホソヒラタムシ科の特徴も分かることになります。少し調べてみました。

跗節(ふせつ)の数

跗節(ふせつ)の数は、難解でした。昆虫の脚は、前脚、中脚、後脚からなります。それぞれの脚は、基節、転節、腿節(たいせつ)、脛節(けいせつ)、跗節(ふせつ)からなります。跗節(ふせつ)の数は、種類によって異なり、2節から5節まであります。その数は、甲虫の科の特徴を表すことがあります。文献では、ホソヒラタムシ科の跗節(ふせつ)の数は、前、中、後節とも5節となっています。

最初、約40倍の実体顕微鏡で観察しました。元々、小さな虫です。実体顕微鏡では、4節にしか見えませんでした。

そこで、カドコブホソヒラタムシを10%水酸化カリウム液に入れ、湯煎(ゆせん)し、数分間温め、体内の内容物を溶かした後に十分に水洗し、ガムクロラル液で封入し、プレパラート標本とし、生物顕微鏡で観察しました。倍率は、約400倍です。すると第3節が小さな第4節にかぶるように覆っていることが分かりました。前脚、中脚、後脚とも跗節が5節であることを確認しました。



ホソヒラタムシ科のその他の特徴

前脚と前胸部が接する部分は、後方で閉じています。

触角は、長く、前胸の最大幅と同じかあるいは長いのが特徴です。カドコブホソヒラタムシは、ほぼ同じ長さでした。

前脚の基節は横長でなく、円形です。

複眼は、前方が湾入することはありません。カドコブホソヒラタムシは、前方は湾入せず、側方に大きく突出しています。

中胸後側板は、中脚の基節の穴に接しています。

以上のことなどがホソヒラタムシ科の特徴の一部です。

